

# I B C 番組審議会月報

2004年6月30日 74

I B C 岩手放送

## 第489回番組審議会・議事概要

日 時 平成16年6月24日(木) 午前11時～12時30分  
場 所 I B C 放送会館 大会議室  
議 題 ラジオ「大塚富夫のタウン」について

委員総数 14名

出席委員 10名

石川 桂司委員長

藤原 正紀副委員長

阿部 价男委員 熊谷 志衣子委員 坂田 裕一委員

佐藤 潤次郎委員 中原 志郎委員 矢佐 俊幸委員

山崎 文子委員 吉沢 正則委員

欠席委員 4名

小苅米 葉子委員 小松 務委員 米谷 春夫委員

三浦 宏委員

I B C 出席者

小西社長、阿部専務、佐藤常務、川島常務、

井上技術局長 村上報道制作局長、朽木制作部専任部長

金谷番審事務局長

---

議題 ラジオ 「大塚富夫のタウン」

< 委員の主な発言 >

臨機応変な大塚さんの言葉は自分自身を出してとても素敵です。スポンサーとの会話は、もう少し生活情報を引き出したらいいのではないかと思います。

大塚さんは人気も抜群でおばちゃん達に人気があるようですが、古い年代にターゲットが限られており、もう少しバリエーションを設けたほうがいいのではないのでしょうか。

今までなら電話でインタビューしていましたが、前に画面を置いてメールで会話をするのはどうでしょうか。大塚さんなら出来るのではないかと考えながら聴きました。

大塚さんの、自然体で、自分の言葉でリスナーと向かい合って会話をしている感じがとてもよく伝わってきます。続けていただきたい番組の1つです。

ラジオの双方向性が感じられ、素朴で非常に好感がもてましたが、土曜日の午後にしては少し静か過ぎる。もっと賑やかでもいいのではないのでしょうか

ラジオの双方向性を生かした生放送の良さが出ていました。県内各地域の取り組みを拾って歩き、ファン層を広げていることは良いことだと思います。

ラジオはもっと音楽をタイミングよく入れたほうがいいと思います。童話大賞はややミステリアスで、高校生がこんなにうまく童話を書くものだ后感心しました。

この番組で一番大切なリスナーへのレスポンスを非常によく感じ取ることが出来ました。リスナーの反応がすごく早く、貴重なコミュニケーションの場所だと実感しました。

「大塚富夫の井戸端風ゼミナール」的なネットワークを大事にしてきたのが長寿番組につながっていると思います。ただ、20年という長さで新陳代謝はどうなっているか気になります。

取り上げ方によってはかなり重い、社会的にもシビアな話題もさりげなく適切な言葉で適切な指摘をしている。かつてと違ったタイプの大塚さんを発見した感じの番組でした。

<局側>

「タウン」を立ち上げた当時のディレクターは、街の様々な顔や話題をそのまま電波に乗せ、井戸端会議的な雰囲気やラジオで表現できないかとスタートしたと聞いています。今もそのスタイルを基本的に守っています。番組で一番大事なリスナーからの葉書、手紙は1週間で150通～200通、当日のメール、ファクスは50前後です。これらをもとにテーマを決め、番組の流れを作っていきます。JFTDさんがスポンサーになっているコーナーについては、事前に私が打ち合わせをしていますが、大塚アナに気持ちとして伝わっていなかったかなと反省しています。メールの利用については、最近の傾向として多くなっているのは事実ですからそれに応えていかなければならず、検討課題だと思っています。午後の番組にしては静か過ぎるというご指摘ですが、基本的には大塚富夫を前面に押し出した番組で進めたいと思っています。音楽は4～5曲ぐらいですが、今までより1曲ぐらいは多くかけようと努力しています。春から秋にかけて営業要請が多くなり毎週のようにスタジオを出ることが増えると思います。

ターゲットは95%が女性で主婦層が最も多く、年代は30代～60代。最近、20代や高校生からも来たり、夫婦で聴いて楽しんでもらったりと少しずつ層が広がってきています。

高校生の退学の問題など重いテーマもありますが、大塚アナのパーソナリティ的部分としてどのように答えていくのかお互いに磨きながら頑張っていきたいと思っています。

2006年のデジタル放送開始の時点では、新山の送信所からだけの電波で、岩手県の世帯数の52～53%をカバーします。さらにアナログ停止の2011年までにおよそ14局の中継局を作る予定で、この段階で現在のアナログのサービスエリアに較べて82～83%というカバー率になります。本来は100%にしなければならないのですが、大変な設備投資が必要になり、さらに上のカバー率を実現するためには公的な支援が必要になると考えています。

ブースター障害の件については、NHKが全国的に使っている計算システムを使って検討した結果、岩手県の場合、件数は極めて少ないのではないかと考えています。